

講演(01) 温暖化による北極海航路の開拓とその意義

石橋 博良

千葉大学環境リモートセンシング研究センター地球温暖化寄附研究部門

○北極海航路の意義

温暖化の影響で北極海の氷は2007年夏には海水面積が最小になった。また、2008年下期には史上初めてカナダ側航路（北東航路）とロシア側航路（北西航路）の両方が同時に海水の無い状態となった。また、IPCCの予測では今世紀中には夏季の北極海の海水が消滅するという予測もあり、北極海航路の可能性は急速に高まっているといえる。

○北極海航路開拓は海運業界において、コンテナリゼーションの次の革命的な出来事。

アジア⇄ヨーロッパの距離が約40%

アジア⇄北米大西洋岸間の距離が30%距離短縮され、距離が飛躍的に縮まる。運航航路の最適化の結果として、二酸化炭素排出量も最適化されていき、ひいては排出量の削減につながっていく。

○新規航路の開拓はWNIの使命。

「10年後に北極海航路は常用航路になる」とある海運会社は言う。

北極海は環境面も考慮して、安全に航行すべき極域。海運会社が北極海航路に行きたい！というときにいつでも安全航行を支援できる体制を整えておくのがGlobal Ice Center。また、航海気象チームにおけるIce Routingにて徹底的に運航までをサポートしていく。具体的には、Global Ice Centerでは、海水情報の集約、実況の海水の把握、I-SEEエンジンによる予測で航行を支援する準備を整備している。また、2010年打ち上げ予定のWNI衛星で宇宙からの感測でも北極海の海水をモニタリングしていく。